



## 400年の時を越えて、日本・スペインの文化交流が新たな広がり

東京新聞 洗筆

お盆とは何か、なぜ日本人は休むのか。欧州の人に尋ねられて、困った覚えがある。ご先祖を迎えて…などと言おうとしてすぐに知識と外国語の能力の限界もやってきた▼京都で暮らし、日本が舞台の小説を書いた英国の作家フランシス・キング氏は、作中の英国人にそんな行事は国にはないと語らせている。「死んだ人間のことには死んだ人間に任せておくのさ。その方がどれだけ健全か」と▼西欧と死生観の違いが大きい分野と思っていたが、そうでもないらしい。スペイン南部の小都市コリア・デル・リオで、お盆に迎えた先祖を送る灯籠流しが行われたというニュースをみた▼約四百年前、仙台藩士、支倉常長の遣欧使節団がたどり着いた街である。日本を意味する「ハポン」を姓に持ち、使節の子孫とされる六百人以上が住む。灯籠流しも近年盛んな日本との交流の産物という。数十人で始まり、三年目の今回はハポンさんにとどまらず三千人以上が参加したそうだ▼「この世にいない人々に祈り、平和を願う」。市はネットで行事の趣旨を説明する。灯が川を流れる画像から静かに過去と向き合っお盆の空気を感じた▼スペインでもご先祖は帰ったようだ。お盆休みが明け、日常と向き合う日々が始まったという方も多いだろう。当方も同様だが、はるか遠くに同じ文化を解する人が増えていると思うと心が少し軽くなる。

2019.8.19

### スペイン南部のコリア・デル・リオから、22名のハポンさんが来日!



2019.8.4 祝

### コリア・デル・リオ市主催の歓迎パレードに参加し市民と交流



2018.6.23 スペイン・コリア・デル・リオ

伊達政宗の家臣「支倉常長」が当時の仙台藩を海外との貿易交渉を通じた日本の発展をめざし、スペインに渡ってから四百年が経ち、昨年、東京地本から8名が「訪西文化使節団」の一員として、当時の使節団（サムライ）の末裔「ハポンさん」が住む、スペイン南部のコリア・デル・リオを訪ねました。そして、東北へのインバウンドPRと日本の伝統文化を伝えて、日本とスペインの文化交流を深めてきました。

今月の八月四日には、スペインから二十二名の「ハポンさん」が、支倉常長の生誕の地である米沢を訪れ、日本・スペイン文化交流フェスティバル二〇一九「ハポンさん来日歓迎式典」で「ウエルカムハポンさん！夏祭り」が開催されました。二十二名の「ハポンさん」は、初めて祖先の地である日本を訪れ、日本の伝統・伝承文化に触れ合い、交流を図りました。

今年、コリア・デル・リオの地では「灯籠流し」が行われ、六百人以上の「ハポンさん」にとどまらず、三千人以上が参加したと言われています。

日本初の外交官である「支倉常長」の偉業から四百年の時を経て、日本とスペインの新たな文化交流が広がりを見せています。今後もつながりを大切にして、先達が果たしてきた文化交流を未来へ引き継いでいくことが重要です。